平成15年度分野別研究組織　研究成果の概要

鉄道車両製造業の取引実態と技術習得過程の国際比較

The International Comparison of the Transaction of Rolling Stocks and of the Technological Acquisition

林田　治男
(Haruo　HAYASHIDA)

昨年度、課題「鉄道車両製造業の取引実態と技術習得過程の国際比較」で採択された。具体的な調査研究テーマとして次の４つを携えて、夏に２ヶ月余英国へ出張した。

① 日本の鉄道草創期における「お雇い外国人」の経歴（前歴、後歴）

② オリエンタル銀行（以下 OBC と略す）の人材募集・機関車などの資材調達方法
当初 OBC がヒト、モノ、カネ一切を管轄していた。

③ 当時の英国の鉄道会社と機関車・部品製作会社の取引関係（とその日本への影響）

④ 現今の取引関係の調査

まずロンドンの国立公文書館で、②の調査を試みた。問い合わせたら、「OBC は私企業であり、関連文書は公文書館が保有する性格の物ではなく、1880年代に破綻した銀行であり文書は廃棄・散逸している、すでに他の研究者が成果を公表している」ということであった。渡英目的の一つが崩れかけたが、アプローチの方法・研究の視点が異なる、また同様の分析方法だとしても、追跡研究により異なる成果が得られると思い直し、調査を進めた。最低限の資料を集めるべく、残存文書と同時に、1870年代前半の日本の鉄道関係記事を雑誌から探した。外務省文書にも当たった。既存研究書や論文も入手し並行して検討したら、小生とは研究領域が違っていて、研究意欲が高揚していった。

上述の作業を1870年代前半で区切りをつけ、①のテーマへと展開した。ここで英国土木学会雑誌に研究報告、諸学会活動等が掲載されているのを知り、集中的に日本関係技師の動向を追跡していった。会員の追悼記事から経歴が浮かび上がり、研究報告から日本体験が有意義に活用されていること等が判明した。さらに学会本部も訪問し、図書館や資料室で住所や勤務先を明記した住所録、および学会入会申請書などを閲覧した。加えて入会資格・申請・状況、会員の負担・ステータスなどもほぼ明白にすることができた。

別に1884年の OBC 破綻時の、債権者リストを公文書館で発見した。「お雇い外国人」も何名か記載されており、そこからいくつか興味ある姿が浮かび上がってきた。

ヨークの国立鉄道博物館の図書館も訪問し、文献の探索・複写を若干行った。時間的制約で、他のテーマの資料探索は不可能だった。ダーリントンの鉄道博物館やロンドンの科学博物館、交通博物館も訪問したが、いずれも資料収集はできなかった。

結果的には４つのテーマのうち、種々の制約があって、1.5位しか実現できなかった。

帰国来、英国での現地調査を、日本側の資料や文献で確認・補強するため、『外交文書』、

『太政類典』、『鉄道寮事務簿』、『大隈文書』、『工部省記録』、『明治前期財政経済史料』等々によって突合せ作業・補充調査を行っている。ここからテーマ③も間接的に研究を進展させることができつつある。

草創期における組織構成・運営、学校教育・実務訓練の面での人材育成・技能形成、車両・部品の取引構造の設定、建設・運行資金の調達と収入管理体系の確立などの側面を徐々に解き明かしていくことを試みている。帰国後、次の2点を『大阪産業大学　経済論集』に投稿した。その後も順次公表していく予定である。

「鉄道草創期に貢献した英国人技術者の経歴」（研究ノート）、5巻3号

「土木学会のステータスと英国人鉄道技術者の動機の考察」、6巻1号